令和６年度　第１回八雲町総合開発委員会議事録（要旨）

【開催日時・場所】

令和６年１０月２９日（火）　１３：３０～１５：１５

八雲町役場第１・２会議室

【出席者】

別紙のとおり

【議題】

１　開会

２　委嘱状交付

八雲商工会女性部　部長　小林氏への委嘱状交付

新函館農業協同組合北渡島運営委員会　委員長　影浦氏への委嘱状交付

３　町長あいさつ

本日は大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

先般、衆議院選挙が行われたことを受けて、さまざまな状況を考慮しておりました。また、昨日は知事との懇談会があり、我々としては、政治がどのように変化しようとも、北海道や八雲町を含むそれぞれの自治体が前を向いて行政を進めていくことに変わりはないだろうと合意しました。その一方で、政局を注視しながら考えていく必要もあると話し合いました。

先日、八雲町と友好都市の関係にある小牧市の小牧市民まつりに参加してきました。北海道八雲町から持参したジャガイモと噴火湾産のホタテを販売しましたが、安くて美味しいと大変盛況で、予定していた時間よりも早く完売してしまいました。今後も八雲の物産を PR しながら、ふるさと納税の PR にもつなげていきたいと考えております。

本日は、委員の皆様から町政の推進に対する貴重なご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

４　会長あいさつ（大野会長）

委員の皆様、お疲れさまでございます。日々、朝晩非常に寒くなってまいりました。今年もあと２ヶ月で暮れようとしておりますが、委員の皆様には大変お忙しい中、本日お集まりいただき、誠にありがとうございます。

本会議につきましては、お手元に差し上げております議案に基づき、報告事項が３件ございますので、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

５　報告事項

（1） 第２期総合計画　令和５年度事業費・実施内容、KPI 進捗状況の評価について

事務局より説明

【佐藤委員】

防災体制について伺います。日本はもとより、世界各地で様々な災害がいつ起きるかわかりません。水の氾濫や地震など、災害は一気にやってきます。国では防災省を設け、その対策に取り組んでいます。幸い、八雲町も危機対策課を立ち上げて、この対策にあたっていることを高く評価したいと思います。

そこでお伺いしますが、避難先での備蓄状況や訓練状況など、危機対策課で実施していることについて教えていただけますでしょうか。

【竹内総務課長】

今まで防災は総務課が担当しておりましたが、今年の 4 月からは危機対策課を設け、現在 4 人の職員で構成しています。一番大事なところは、危機対策課という組織体制を明確に立ち上げ、防災や災害に関する情報、訓練、研修を充実させるよう努めている点です。

幸いなことに、町民の皆さんも防災に対して関心を持っていただいており、町民からの防災研修会実施の要望を受け、町連協とタイアップして防災に関する講習会を開催しています。また、小中学校でも児童・生徒を中心に防災に関する授業を行っている状況です。このような地道な活動を通じて、防災意識の醸成を展開している状況です。

備蓄に関しては、厳冬期に対する防災対策が重視されており、ストーブやジェットヒーターなどの暖房機器の備蓄を進めています。この備蓄に関しては、新庁舎が令和 7 年度・8 年度に建設工事予定であることを考慮し、新庁舎の裏手にある旧養護学校を防災の備蓄庫として活用する方針で改修を進めています。町民の方々には備蓄状況を周知し、情報共有を図れるような仕組みを考えています。また、人的な面では、来年から退職された自衛官を防災専門官として採用し、防災に関する知識を持つ退職自衛官を加え、5 人態勢とすることを考えています。

【佐藤委員】

今年は木彫り発祥の地として 100 周年を迎え、私もいくつかの催しに参加しております。一例を挙げますと、木彫り熊発祥の地 100 年キックオフトークが本年の 3 月 26 日に開催され、その後、様々なイベントが民間グループや団体によって立ち上げられ、行われていることに感心しております。

そこでお伺いしますが、公民館講座の木彫り熊教室には非常に多くの方が参加し、15 名の方が木彫り熊の講座を受講しています。新しい講師には 5 代目の伊瀬司さんが指導しており、受講者たちの熱心な姿を見て、やはりこの活動が大事であると感じています。このようなことを踏まえ、木彫り熊の技術を継承していくことが重要だと思いますが、その取り組みについてお聞かせいただければと思います。

【土井教育長】

佐藤委員がおっしゃる通り、3 月 26 日に木彫り熊 100 周年記念キックオフトークイベントを開催し、河村市長にもご参加いただきました。本当に盛り上がるキックオフイベントになったと感じています。その後も資料館において講話などを交え、8 月 31 日と 9 月 1 日のメインイベントに向

けて気運を盛り上げてきました。
8月31日と9月1日には、メインイベントとしてスイスからジョバンさんに来ていただきました。その際には鈴木譲さんのご尽力のもと、約100年前の木彫品を町にご寄贈いただき、現在、特別展を開催し木彫り熊資料館で公開しています。資料館には道内はもとより道外、さらには外国からも多くの方にお越しいただいており、木彫り熊や八雲町の郷土資料を見ていただけることをありがたく感じています。
　また、木彫り熊100周年記念としてテレビ番組を作成しました。この映像は編集を行い、学校での教材として活用できるようにし、木彫り熊の発祥の経過、特に尾張徳川家と八雲の歴史を子供たちにしっかりと記憶に刻んでもらうため、長く教材として使っていきたいと思っています。
メインイベントでのトークイベントには、八雲産業の方や徳川林政史研究所からお越しいただき、尾張徳川について詳しく解説していただきました。また、義親がヨーロッパを回ったことなどについても非常に丁寧に説明していただき、イベントに参加された方々からは「八雲町の歴史を学ぶ貴重な日になった」との評価をいただきました。
　今後、八雲町の木彫り熊の伝承に向けて、佐藤委員がおっしゃった通り、木彫り熊を彫る方々の裾野を広げ、取り組む人を増やすような活動にも着手していきたいと思っております。そして、八雲町の木彫り熊がもっと広く知られるよう、今後も検討を重ねていきたいと考えています。

【佐藤委員】
　追加の質問ですが、スイスへの視察研修の状況はいかがでしたでしょうか。

【土井教育長】
　スイスへの視察研修についてですが、これは令和5年度の予算となります。尾張徳川家の当主にお願いし、義親公の歩んだ道を通りながら記録として映像に残すことを考えていました。また、職員も同行し、ジョバンさんとの交流を深めることを目指していたのですが、義崇様のスケジュールが取れなかったため、見送ることとなりました。

【稗田委員】
　事業内容についてお伺いします。コンブ礁の造成事業などの裏付けはどのように設定されていますか。ただ単に行う事業を羅列した資料となっており、その結果が見えてこないため、本当に効果のある事業が行われているのか疑問に感じています。
　具体的には、海岸を観察すると、石がかなり白くなっており、これは石灰藻が付着しているためです。こうした場所では昆布などは育ちません。そのような状況の中で、例えば人工の漁礁を設置しても、同じように石灰藻が蔓延ることになるでしょう。これを繰り返すことで、人工漁礁はあちらこちらに投入され続けるだけで、一向に効果が上がらないと思います。
　そのような事柄について、どのように検証し、事業を実施されているのか教えていただければと思います。

【田村地域振興課長】

コンブ礁の造成事業についてですが、事業期間は令和 2 年から 10 年間の事業であり、北海道が事業主体となって行っています。地元漁協である八雲漁協、落部漁協と協議し投入する箇所を決め、前浜にコンブ礁を設置し、藻場を作ることで漁業資源に結びつけるという内容になっています。町はこの事業に対し、10 分の 1 の受益者負担が発生しており、その負担を漁協と町で半分ずつ支出しています。
稗田委員がご指摘の通り、磯焼けは日本海側で進んでおり、浜全体が白くなり、無節サンゴモなどの植物が岩に張り付いて昆布が生えない状況が見られます。これが磯焼けの状態だと認識しています。このような状況は、太平洋側では日本海側に比べて少ないと思いますが、やはり見られるのが事実だと聞いております。
現在、北海道が事業主体となってコンブ礁を用いた事業を東野から栄浜で行っており、落部漁協では設置した漁礁について、海中ドローンや空中からドローンで撮影を行い、繁茂状況を調べています。また、北海道でも設置した漁礁については毎年状況を確認しており、海藻が設置した場所には量に差はあるものの、全基に海藻が生えているとの報告を受けています。

【稗田委員】
漁礁を設置している場所を空中からドローンで確認しましたが、白くなっており、あまり効果が上がっていないように見えます。このため、本当に何故それが上手くいっていないのか何故考えないのか理解できません。しっかりと検証し、改善について検討しながら対応していく必要があると思います。単に投入しているだけでは、例えばコンクリートであれ岩石であれ、表面に胞子が付着し生育しますが、2 年経つと泥を被ったりして、胞子が付いていても生育できない状況になります。
その中で特に強いのが石灰藻です。これが蔓延してしまうと、石が白くなります。石灰藻が生えると、胞子が毒素を出して生育を阻害するという見解もあります。そのため、現状の手法では上手くいかないのです。海の環境自体が変化しており、その変化の原因を解明しなければ、投入しても意味がありません。対処療法では効果が薄く、その点を真剣に考える必要があります。
前回の意見と重複しますが、議論のためには分科会を設けることが重要だと提案させていただきました。その体制が整わないことについては、少し理解に苦しむところです

【田村地域振興課長】
稗田委員の意見については、町議員の方からも同様の話を伺っております。この事業は令和 2 年から始まりましたが、実際に海に漁礁を設置したのは令和 3 年であり、現在は海藻が生えてから 3 年ほど経過した状況です。漁業者からも同様の意見が寄せられていると聞いていますので、今後、担当課と漁協、道と相談しながら状況を確認し、例えば新しい手法を試すなどの検討を進めていくことになるかと思います。
当然、地元の方々や漁協も負担金を支払っていますので、事業効果が見られない中で何もしないで漁礁を入れ続けるということはありません。状況を見ながら、適切な検討が行われるものと考えています。

【稗田委員】
補足として考えていただきたいことがあります。白くなっている場所は泥水が多く、泥が滞留するようなところで、石が白くなっています。磯焼けという一般的な表現がされていますが、北海道大学の教授に

よると、単なる磯焼けと海の砂漠化という区別がされています。
単なる磯焼けとは、石の表面が綺麗であるものの、ウニなどの影響で食害され、海藻が育たなくなる現象です。一方、石灰藻が蔓延り、昆布の胞子が育たないような環境が形成され、不毛の海藻となっている状態を砂漠化と呼んでいます。この二つの現象の区別があります。
石灰藻が蔓延る原因はやはり泥にあります。泥の中では、普通の海藻が石灰藻との繁殖競争に勝てないのです。そのため、石灰藻が蔓延り、石が白くなり、不毛の海藻の状態が生じてしまいます。つまり、泥の存在を視点に考えなければならないのです。この点について、ぜひご説明いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【大野会長】
稗田委員の意見には理解を示しますが、その件については専門的な内容となるため、道と共有し、どのような対策が適切であるかを検討していただく必要があります。当会議で回答を求めても、この場で結論が出る問題ではないと思いますので、その点についてご理解いただければ幸いです。

（２） 第２期総合戦略　進捗状況報告（令和５年度末）について
事務局より説明

【梅津委員】
南北海道定住自立圏連携事業について、簡単にご説明いただけますでしょうか。

【川口政策推進課長】
南北海道定住自立圏連携事業は、渡島檜山市町村および産業などの関係団体によって組織されており、事務局は函館市が担当しています。この事業は、一つの市町村で実施するよりも、各町が連携して広域的に事業を行った場合に効果が大きくなるという考えのもとに実施されています。
具体的な事業内容としては、各町の負担金を募って行うドクターヘリの運行や救急救命士の養成、路線バスの維持・確保活動、国道や道道の道路整備に関する期成会の活動促進などがあります。これらは、単独の町では活動しづらい、あるいは難しい部分について連携し、意見や知恵を出し合って進める事業です。

【稗田委員】
桧山管内のサケ回帰率についてですが、噴火湾の回帰率を示さなかったのは何故でしょうか。データが存在しないのでしょうか。平成 30 年以降、回帰率は右肩上がりで推移している中で、せたな町は漁獲の 70%から 80%をサケが占めています。桧山管内では回帰率が上昇している一方で、噴火湾においては右肩下がりの状況が続いています。この辺りの理由を探っていくことで、何か見えてくるものがあるのではないでしょうか。

【田村地域振興課長】
桧山管内のサケ回帰率についてですが、総合戦略の事業として、ひやま地域サケ増殖事業（桧山地域の

5 町による広域事業）として実施しています。八雲地域については、この KPI に関連する事業ではないため、回帰率を出していないということです。決して回帰率が不明であるから出していないという意味ではありません。これは、総合戦略の事業に対する KPI 報告であるため、ご理解いただければと思います。

また、八雲地域の回帰率については今回の議題とは異なる内容となりますので、別の場で議論いただくようお願いいたします。

【影浦委員】

第 2 期八雲町統合戦略では、「働く人をつくり、産業を活性化する」という基本目標が設定されています。上八雲には（株）青年舎が運営する大関牧場が設立され、農業の担い手となる新しい人材を育成する取り組みが行われています。しかし、実際のところ、農業の担い手となる若い人々が八雲町に集まっているかというと、難しい状況です。町内でも後継者が不足しているのが現状です。

八雲町の基幹産業である一次産業を大切にするべきであり、私は農業の分野となりますが、総合的に見て離農が加速しています。全国的に、特に酪農では近年の生産調整などの影響もあり、相当なスピードで進行しています。八雲町は近代酪農発祥の地とも言われており、「親の背中を見て子は育つ」という言葉もあることから、若い後継者の育成が必要です。

そのためには、さまざまな角度や視点から八雲町の農業やその魅力を PR していく必要があると思います。これは農業者や農協だけでなく、町全体が一体となって産業の活性化に取り組まなければ、農業が維持できない状況となっています。農協としても、大関牧場で行われている担い手の養成に対し支援を行いながら、農業の担い手対策や農業振興を進められるよう議論し計画の策定を進めていますので、町としても現状を理解いただき、各種事業を進めていただけるようお願いいたします。

【岩村町長】

大関牧場については、農業の担い手や人材育成を目的に、農協等とともに出資して設立しました。この取り組みには明るい希望を持っており、さまざまな意見を聞き入れながら活動を進め、農業の担い手対策を進めていきたいと考えていますので、引き続き提案いただきますようよろしくお願いいたします。

（3） 第 3 期人口ビジョン・総合戦略（案）について

事務局より説明

【稗田委員】

人口の観点から考えると、魅力ある産業、つまり仕事がなければ人が来ません。そして、たとえ来ても仕事がなければ住む理由がありません。そのため、魅力的な仕事を創出するには、八雲町の自然の生産力に依存した産業、つまり一次産業である農業、漁業、林業を活性化する方向で考えていく必要があります。これにより、仕事が増えていくと考えています。

特に私は水産業に関心を持っていますが、鮭やホタテが昔のように豊漁になることで、付随する加工業などの仕事が増えると思います。しかし、現在の状況では自然の生産力が低下しており、この問題を真剣に考えなければ、危機的な状況にあると考えています。改めてこの点に意識を向けていただきたいと思

います。

6　その他

【梅津委員】

「八雲町のファンを増やす」というスローガンが素晴らしいと思います。

ファンを増やすにあたっては、やはり観光が重要です。ただし、「観光」という言葉自体はあまり具体的な意味を持たないこともあります。八雲町にはいろいろな観光名所や様々な施設があり、木彫り熊も紹介されていますが、その中でも一番の目玉はやはり夏の山車行列だと思います。今年も年々予算を増やしていただいていると思いますが、その中で新しい取り組みとして、八雲山車行列に参加する人を中心にした「八雲山車行列キャンプ村」がさらんべ公園で1週間ほど開催されました。

このキャンプ村には、国内では埼玉や奈良などから、国外ではカナダやインドから約30名のスタッフが日替わりで参加してくれました。多くの大学生や関係者が遠方から訪れ、楽しく過しみながら実施することができました。私も参加させていただき、当日には山車を1台作って行列に参加しました。しかし、後日町民の方にお聞きすると、そのイベントがどこで行われていたのか全く知らなかったという声がありました。参加者だけが楽しんでいたという経緯があったため、来年はもっとPR活動を行いたいと考えています。今年は、山車行列に対する事業支援金の中からキャンプ村の費用を捻出することになり、予算が厳しく、食事や施設面で整わなかった部分もありますので、来年はぜひ助成を増やしていただき、八雲町の目玉としてさらに大きく発展させていきたいと考えております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【土井教育長】

第40回ということで、本当に記念すべき大会でした。梅津委員がおっしゃるように、キャンプ村に若い人が集まり、楽しんでいただけたこと、私自身もその一員として参加させていただきましたが、当日もこれまでとは違った方々の盛り上がりを、山車行列の中で感じることができ、素晴らしい会になったと感じております。

次年度におきましても、収入財源的な部分、そして全体の費用についても見ながら、実行委員会の方々としっかりと連携を取り、補助金の確保についても財政担当と協議してまいりたいと考えております。

【長谷部委員】

何点かお話しさせていただきます。まずは最近の海の変化についてお話ししたいと思います。地球温暖化の影響もあり、海水温がかなり上昇しています。そのため、噴火湾で獲れる魚も大きく変わってきていると聞いております。この現象は八雲町だけではどうにもならないことですが、これまで獲れていた魚種を対象とした産業育成だけでいいのかという疑問があります。魚種の変化に合わせた産業の育成についても、今後検討していく必要があると思いますし、長期的に考えると、海水温の上昇が進んでいる現状において、産業の育成を考える時期に来ているのではないかと私は思っています。

函館では、ブリが大量に獲れており、どうしようもない状況です。魚の単価は下がるものの、獲れているものは仕方がないので、そうした現状を認める必要があります。その中で、産業の育成について今後も考えていく必要があると考えます。もちろん、町が主導し、民間企業にも協力をお願いする形になるかと思

いますが、そういった検討が今後必要ではないかと思います。

次に、木彫り熊の彫り手の育成についてお話しします。今年から新しい木彫り熊講座の講師が変わり、活躍されています。しかし、もっと若手の彫り手を育成するために、教育長にご協力いただきたいと思っています。小中学校の子供たちに、例えば図工の時間や美術の時間の一環として木彫り熊を教えることができるかどうか、専門の先生がいない場合には難しいかもしれませんが、木彫り熊講師の活用を含めて、授業の一環として取り入れることを検討していただきたいと思います。そうすることで、若い彫り手たちが興味を持つ機会が増え、裾野が広がるのではないかと期待しています。

次に、防災の関係についてですが、八雲町は災害が少ないとはいえ、災害は人の想定を超えて発生するものです。そのため、常に備えていかなければならないということを忘れてはいけません。私自身もその意識を持っております。11 月 23 日に地域防災マスターの養成講座が行われるという情報を聞き、私も早速申し込みをさせていただきました。この講座についても、ぜひ広く PR をお願いしたいと考えております。

【岩村町長】

現在、海水温が上がっているということで、今回もホタテのラーバが取れなかったという状況です。両漁協と「ホタテだけでいいのか」といった話し合いも行いながら、次に成長できる魚種を検討するために、現在、いろいろと協議を進めています。

農業についても、今まで通りの酪農だけで良いのかという疑問もありますので、漁業については漁協と、農業については農協としっかりと協議を行い、さらなる成長ができるような取り組みを進めていきたいと考えています。町としても、そういった取り組みをバックアップしたいと思っています。

ただし、農家や漁師の方々がやる気を出さないと、町としても支援が難しくなりますので、十分に漁業者や農業者と話し合い、全面的に協力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

【土井教育長】

木彫りの熊を学校でも取り組んでみてはどうかというお話、ありがとうございました。校長会等でも、その辺について相談してみたいと思います。

夏休みや冬休みなどを除くと、1 年間は 35 週という限られた期間しかありませんので、何でも増やせる状況ではないのですが、長谷部委員がおっしゃったようにいくつかの課題があります。八雲町ならではの木彫り熊を、図工や総合的な学習の時間に取り入れることができないか、こういったことも相談してみたいと思います。

【竹内総務課長】

地域防災マスターの養成についてですが、町民の方々からの応募が結構寄せられている状況です。また、職員も防災マスター資格や防災士の資格を取得していますので、そういった取り組みをさらに広げていきたいと考えています。将来的には、こうした資格を通じて地域で活動いただける自主防災組織に発展させていきたいと考えております。

【稗田委員】

いただいた資料をいろいろチェックし、聞きたいことがたくさんあったのですが、結局藻場造成だけで時間がないと言われてしまい、議論する余地が必要だと思います。そこで、前回提案したように、こういった分科会を作ることはできないでしょうか？

先ほど防災の件についてもお話がありましたが、河川災害にはさまざまなパターンがあります。堤防の決壊、道路の崩壊、橋が流されること、内水氾濫など、これらのパターンを分析しなければ、災害対策を練ることはできません。

多くのファクターを考慮すると、ぜひ分科会のようなものを作っていただきたいと思います。八雲は、安全・安心な食の生産基地として、一次産業を育成することが重要です。「安心・安全」をブランド化することができれば、さらに良いと思います。

【井口委員】

開発委員会の議題とは全く異なる内容かと思います。それらの詳細についてはそれぞれ別に検討していろいろ進めておりますし、ここは総合計画の中でどのようにやっているかという点だけで十分ではないかと思います。それまで進めると時間が足りなくなってしまいますし、もし細かい部分までやるのであれば、全く別の話になると思います。

【大野会長】

稗田委員、いろいろあると思いますが、原課にお話を確認していただきたいと思います。当会議の内容については、先ほど井口委員がおっしゃったことを踏まえ、一つよろしくお願いいたします。

6　その他

7　閉会

令和６年度　第１回八雲町総合開発委員会出席者名簿

№.	区分	氏名	所属	備考
1	委員	大野　尚司	八雲町町内会等連絡協議会	
2	委員	井口　啓吉	熊石町内会等連絡協議会	
3	委員	小林　孝子	八雲商工会女性部	
4	委員	本田　貴臣	八雲観光物産協会	
5	委員	影浦　義和	新函館農業協同組合北渡島運営委員会	
6	委員	久保　扶佐子	八雲町漁業協同組合女性部	
7	委員	能代　常男	八雲町社会福祉協議会	
8	委員	浅沼　真	連合北海道八雲地区連合会	
9	委員	古澤　新一	八雲町スポーツ協会	
10	委員	杉浦　則昭	北海道労働金庫八雲支店	
11	委員	青沼　千鶴	司法書士・行政書士やまびこ事務所	
12	委員	長谷部　修	一般公募	
13	委員	佐藤　馨	一般公募	
14	委員	稗田　俊一	一般公募	
15	委員	梅津　隆二	一般公募	
16	町	岩村　克詔	町長	
17	町	成田　耕治	副町長	
18	町	土井　寿彦	教育長	
19	町	竹内　友身	総務課長	
20	町	川崎　芳則	財務課長	
21	町	田村　春夫	地域振興課長	
22	町	竹内　伸大	八雲総合病院事務長	
23	町	川口　拓也	政策推進課長	
24	町	宮下　洋平	政策推進課長補佐	
25	町	右門　真治	政策推進課政策企画係長	